



ラクマン アクバー  
Rafman Akbar さん  
八女市黒木町在住

アメリカ・カリフォルニア州出身。大学時代、福岡県のJETプログラムに応募し小・中学校の英語指導助手として2002年に黒木町へ。結婚後、自宅で英会話教室を開く。現在は教室の合間に、公民館講座や保育園で英語講師など幅広く活動を行っている。今年度から矢部清流学園の英会話教室にも携わっている。

【黒木町の好きなおとこ】  
誰とでも気軽にあいさつし、地域ぐるみで子どもを見守り育てる近所付き合いを大切にしているところ

# 言語や文化の違いを認め 合い、ともに安心して暮 らしていくために

近年、日本では外国からの観光客以外にも地域で暮らす外国人が増えており、私たちの生活のなかでも身近な存在となつていきます。ともに地域で安心して暮らしていくために大切なことは何か、アメリカから来日して18年、黒木町で英会話教室を営む、ラクマン・アクバーさんにお話を伺いました。

初めて訪れた黒木町の印象は？

自然が多くとても静かで、故郷のカリフォルニア州との違いにびっくりしました。

言葉も文化も違う異国で暮らすと  
なると不安も大きかったのでは？

来日して間もない頃は、まだあいさつ程度の日本語しかできなくて、英語の説明書きがほとんどなかったのが大変でした。銀行ATMの操作方法や、病院で自分の症状を伝えること、医師の説明を理解することが難しく困りました。アメリカでは簡単にできていたことが日本では全くとできず、知り合いもいなかったので、やっていけるのかなと不安でいっぱいでした。

地域の人たちとはどのように交流  
していかれましたか？

きっかけが掴めなくてどうしようかと迷っていたところ「アクバーさん何してる？」「困ったことはない？」と、近所の人たちの方から声をかけてくれました。みなさん優しくして私に聞

き取りやすいようにゆっくり大きな声で話してくれました。言葉はうまく理解できなくても、自分への気遣いが伝わってきたり嬉しかったです。交流が進むにつれ少しずつ不安がなくなり、自信はなかつたけれど、自分からも話しかけてみようと思えるようになったなりました。

地域にはたくさんの方々があつて、子ども会や運動会などアメリカで経験したことのないものばかりでしたが、声をかけられた時は積極的に参加するようにしました。「なんでそんなことをするんだろう」と理解できないことでも、やってみないと分からないと考え、まずは一緒にやってみることを心掛けました。そうやってお互いを知る機会を持つことが、現在のご近所付き合いにつながるきっかけとなったような気がします。

自身の経験から、外国人が地域で  
安心して暮らしていくために大切  
だと思ふことは何ですか？

まずは、やはり言葉でしょう。日本に住む多くの外国人は、一生懸命に日本の言葉を勉強していますが、お金に関することや地域の決まりごと、災害時の避難のことなど生活に必要な情報について、いろいろな言語表記が充実していると、異国での生活に対する不安が軽くなります。私自身、英語の表記が充実していたらもう少し早く日本の生活になじめたかなと思います。

もうひとつは、「違うこと」を受け

入れることのできる柔軟性です。言葉や文化が違うから、お互いに理解できないことや不満に思うことがあるのは当然です。だからといってそれぞれの「当たり前」に固執しては、不快な思いが募るばかりで疲れてしまいます。だから、まず「そういう考えもあるんだな」と相手の考えを認めたい。意見と意見を交わし、お互いが最適だと納得できる新しい価値観を導き出していく。このような柔軟な関係性が大切だと思います。アメリカにずっと暮らしていたら、このような考え方はできなかったかもしれません。

現在、アクバーさんは、英会話教室で年齢問わず多くの生徒さんに英語を教えています。授業のたびに、自分にやさしく接してくれた地域の人たちの気遣いを思い出し、生徒一人一人の得意分野、苦手分野に丁寧に向き合うことを心がけているそうです。八女市でも、今後ますます外国人と地域で関わる機会は増えてくると予想されます。今回のアクバーさんのお話から、日本語が不慣れた外国人に、必要な情報を分かりやすく伝えるためのさまざまな工夫が必要なことやお互いに理解し、認め合うことの大切さを知ることができました。